

令和2年度 学力向上プラン

学校名 中央区立銀座中学校

学校の教育目標

きたえる学校 <ul style="list-style-type: none"> ○自ら考え 進んで学ぶ人になろう ○情操を高め 心豊かな人になろう ○心身をきたえ たくましい人になろう

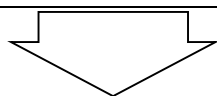
学校経営方針（確かな学力向上にかかわる内容）

知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力等の育成、学びに向かう力・人間性等を涵養し、「確かな学力」の向上を図る。

令和元年度「学習力サポートテスト」「東京都学力向上を図るための調査」「全国学力・学習状況調査」の結果分析や、日常の学習の様子等から見られる課題及び要因		
	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	▲漢字を正しく書けていない生徒がいる。 ▲問いに対して的確に答える力が不足している。	<ul style="list-style-type: none"> ・練習不足により、漢字を間違えて覚えている。 ・問題を的確に読み取ることができていない。
数学	▲問題文などを読み取る力が不足している。 ▲分数や小数の乗除混合や四則の計算を苦手としている。	<ul style="list-style-type: none"> ・問題文を数学的に、正確に読み取ることができていない。 ・絶対的な練習量が足りず、そのため間違いやすい部分に対する注意が不足している。
社会	▲一問一答の知識には強いが、社会的事象を深く理解することに課題がある。 ▲問題文や図・グラフを読み取る技能に課題がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題を追究し続ける意欲に課題がある。 ・問題文や図・グラフを正しく読み取る力に課題がある。
理科	▲科学的思考力と自分の言葉で表現する力に課題がある。 ▲理科の問題を解くにあたり、読解力が不足している。	<ul style="list-style-type: none"> ・実体験が不足している。 ・説明・要約など言語活動の不足。
英語	▲英語の基礎的・基本的な知識の定着に課題がある。 ▲時間をかけ、教員等の援助を受ければ、英語で用いた発語や記述ができるが、自己の意見や考えを、英語を用いて表現することに課題がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・英文法の基礎的知識、単語の習得が不十分である。 ・英語を用いた表現活動の経験が不十分である。

体 育	<p>▲走・跳・投の基礎的運動能力が不足している生徒がみられ、能力の高い生徒との差が大きい。</p> <p>▲仲間とコミュニケーションをとりながら、積極的に運動に取り組むことが苦手な生徒が多い。</p>	<p>・様々な種目での運動経験が不足している。</p> <p>・お互いに声を掛け合って活動する機会が少ない。</p>
-----	---	--

学力向上に向けた視点	年度末までの目標及び指標
① 学力基盤	授業内で行われる反復練習、及び授業内で実施する小テスト・単元テストを通じて、基礎的・基本的な知識の習得を図る。
② 授業改善	I C T機器を活用し、視覚教材の開発を行う。そして、生徒が考えた意見や作品を相互に見せ合う等の工夫をすることにより、意見交流の場を設定する。
③ 教員の指導力	授業終始の挨拶・呼名、毎回の授業におけるI C T機器を用いた活用場面・形態の工夫、指導と評価の一体化について全校で共通理解を図り実践する。
④ 家庭との連携	各教科において、定期的な学習課題を生徒に課す。HPの活用など家庭との連絡を密にし、生徒の学習状況や課題の提出状況を伝えるなどして、8割以上の提出率を達成する。
⑤ 体力向上	「走る・跳ぶ・投げる」という基礎的な運動能力の向上のために種目を設定し、昼休みの校庭・体育館での運動を推進する。



【目標達成のための具体的な取組内容】

①学力基盤	
取組Ⅰ	年間を通して、読書に取り組みさせることで、読書に親しみ文章を読み取る力を伸ばす。また、各教科から出される課題と学校図書館における蔵書との関わりを示し、学校図書館の利用率を高める。
取組Ⅱ	基礎的・基本的な内容な内容の理解と定着を図るため、5教科において、単元ごとに小テスト等を実施する。 ホームページで月1回各教科からの授業内容、アドバイスを掲載し家庭でも復習できるようにする。
取組Ⅲ	読み取る力とともに、文章で答える・表現する力を伸ばすため、授業や行事等を振り返り文章にまとめる活動に取り組みさせる。また、毎日の生活記録を記入する取組を行い、文章で表現する機会を増やす。

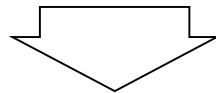
②授業改善	
取組Ⅰ	令和元年度まで2年間研究した成果を生かし、各教科の年間指導計画に具体的なICTの活用方法を記入する。またICT機器を活用した研究授業を1つ以上計画する。
取組Ⅱ	校内研修会を通じて、教員が互いの授業を参観し、意見交流する場面を設定する。その成果や課題を、日々の授業改善に生かす。
取組Ⅲ	生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、校内研修会を通して、教員の指導内容と評価場面や評価方法について研修を行う。

③教員の指導力	
取組Ⅰ	令和元年度に研究したICT機器を活用した授業改善の方法を生かし、生徒達に学習予定の提示、調べ学習、意見交流のきっかけ等、ICT機器を活用して授業を行っていく。また、教員同士の授業観察を行い、互いの授業内容や形態などディスカッションをしながら授業を工夫していく。
取組Ⅱ	授業規律に関わる事項を全校で共通理解する。例えば、落ち着いた授業環境をつくるため、授業終始の挨拶や呼名、指示・説明の方法、学習目標の提示の場面設定、授業の受け方指導などを行う。
取組Ⅲ	日頃から、教科の枠を超えて、教員間での教え合い、計画的なOJT研修を行い中堅教員から若手教員への指導・援助等、組織的・継続的な教員の育成を行い、指導力を高める。

④家庭との連携	
取組Ⅰ	学校便り・学年便り・ホームページ等で、学校の取組、生徒の活動、PTA活動等を積極的に発信する。また、ホームページでは月1回各教科からの授業内容、アドバイスを掲載し家庭で復習できるようにする。
取組Ⅱ	担任から、生徒の日常的な生活の様子、学習状況や課題の提出状況等を伝えるなど家庭との連絡を多く取り、家庭と連携した指導を行う。
取組Ⅲ	SNS利用における家庭でのルール作り・マナー指導のために、3年間を見通した計画的な携帯・スマートフォンに関わる安全指導を行う。

⑤体力向上

取組Ⅰ	「走る・跳ぶ・投げる」基礎的な運動能力の向上のために、体育の授業を中心に ICT 機器を活用しながら技術の向上に推進していく。
取組Ⅱ	授業および外部講師による講演会等により、体力の向上とともに自己の心と体の健康について理解を深めるための学習活動を行う。
取組Ⅲ	コーディネーショントレーニングや体幹トレーニングを取り入れた授業を、意図的・計画的に行い運動能力の基礎的な力を高める。



【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点	取組の成果	取組の課題
①学力基盤	5教科において、授業や朝学習の時間に単元ごとのテストや小テストを行い、基礎的基本的な学力の向上の定着を図ることができた。学習力サポートテストの結果からも学年が上がるごとに区、都の平均値を上回ることができた。また、生活記録を毎日行うことで忘れ物の改善に繋がっている。	今年度コロナ禍の中、授業確保の関係で朝学習の時間に朝読書を行うことができなかった。来年度は読書時間を確保し、学校図書館の利用率を高めていく。ICT機器を活用したドリルソフトへの取組を通して基礎・基本の定着を図る。
②授業改善	ICT活用とESDに関する授業を全教科で行い、学期に1回必ず授業を見合う時間を取ることで、全教員が授業改善に取り組んだ。研修会に加え普段の授業を参観する機会を増やし、授業に対する意見交換を活発に行うことができた。また、生徒同士の意見交流の場を設けることで授業がより深まった。	教科部会で新学習指導要領に対応した、具体的な評価方法を検討する。各教科で必要とする資質・能力を身に付けるため、主体的、対話的で深い学びを実現する授業改善を行う。
③教員の指導力	今年度コロナ禍の中でホームページやオンラインミーティングツールなどICT機器を使用した活動が増え、全教員が積極的に活用した。生徒のアンケートからもICT機器を使用した授業を行っていると答えた割合は85%に上り、生徒は授業は分かりやすいと評価している。	今年度はコロナ禍の中、計画していた月1回のOJT研修を行うことができなかった。来年度は、計画的に実行していく。また今年度に引き続き、ペアでの授業参観を行い、授業評価シートを活用した授業の改善を行っていく。また、授業規律の徹底を引き続き行っていく。
④家庭との連携	臨時休業中も毎日ホームページの更新を行い、学校からの情報を生徒や家庭に伝えることができた。またオンライン学活を実施し、生徒と直接対面する機会を設けることができた。臨時休業開けも月に1度は学年、教科のページを更新し、家庭への情報発信を継続している。提出物においてはどの教科も8割の提出ができています。	感染症対策のため、実際に学校の様子を保護者に見てもらう機会が少なかった。来年度は教科だけでなく各分掌に担当を決め、行事等も積極的にホームページの更新を行っていく。またSNSルールについては家庭と協力し生徒に今まで以上に浸透するように指導を継続していく。
⑤体力向上	毎回の授業の中で筋力トレーニングを行い、体力向上や体幹をつけることを目指して取り組んだ。短距離走ではタブレット端子を使用し、技術の向上につながった。また、長距離走では、15分間走やペーстрレーニングを取り入れ、個人にあったトレーニング方法に取り組み体力向上につなげた。	生徒の体力に応じたトレーニングメニューを活用した取組や、コーディネーショントレーニングを取り入れた活動を充実させる。健康や体力向上に関する講演を実施し、生徒の意識と意欲を高める取組を行う。